

令和5年
2月5日(日)

日本遺産 シンポジウム

in 足利

18:30 開会

観覧申込

令和5年1月10日受付開始
電話で足利市文化課まで
0284-20-2230

会場 栃木県南地域
地場産業振興センター
(足利市田中町3-2-11)

18:35～ 日本遺産ストーリー紹介
14:10～ 足利カンマーオーケスター
14:35～ パネルディスカッション

物販ブースは
13:00からOPEN!



館林市：実りの沼多々良沼



足利市：史跡足利学校



桐生市：後藤織物

共催 教育遺産世界遺産登録推進協議会
桐生市/かかあ天下ぐんまの絹物語協議会
館林市/館林市教育委員会/
館林市「日本遺産」推進協議会

後援 (一社)足利市観光協会/(一社)桐生市観光物産協会/館林市観光協会
(株)足利銀行/(株)群馬銀行



詳しくはコチラ!!

問合・申込(足利市文化課)／0284-20-2230
MAIL／bunka@city.ashikaga.lg.jp

パネルディスカッション コーディネーター 熊倉 浩靖氏

■学会・社会活動等

内閣府地域活性化伝道師
群馬県文化審議会副会長
(公益財団法人)大川美術館評議員
(一般財団法人)世界文化遺産地域連携会議理事
みなかみユネスコエコパーク推進委員会委員
富岡市地域づくり事業アドバイザー・富岡学アドバイザー
藤岡市地域コミュニティ活性化に関する懇話会委員
館林市「日本遺産」推進協議会委員 等

■主な著書

『群馬県謎解き散歩』KADOKAWA
新人物文庫(平成25年〔2013〕)
『増補版 上野三碑を読む』雄山閣
(平成29年〔2017〕)
『「日本」誕生 東国から見る建国のかたち』
現代書館(令和2年〔2020〕)など



足利市 パネリスト
足利市長 早川 尚秀



たかうじ



桐生市 パネリスト
桐生市長 荒木 恵司



キノピー



館林市 パネリスト
館林市長 多田 善洋



ほんちゃん

足利市

日本遺産認定ストーリー#1 近世日本の教育遺産群 —学ぶ心・礼節の本源—



教育遺産世界遺産登録
推進協議会HP

■認定年月日 平成27年(2015)4月24日

■認定形式 シリアル型 足利市の他に水戸市(茨城県)・構前市(岡山県)・日田市(大分県)

■ストーリー概要

我が国では、近代教育制度の導入前から、支配者層である武士のみならず、多くの庶民も読み書き・算術ができ、礼儀正しさを身に付けるなど、高い教育水準を示した。これは、藩校や郷学、私塾など、様々な階層を対象とした学校の普及による影響が大きく、明治維新以降のいち早い近代化の原動力となり、現代においても、学問・教育に力を入れ、礼節を重んじる日本人の国民性として受け継がれている。

■主な構成文化財

足利学校跡[聖廟および附属建物を含む](国史跡)、漢籍『礼記正義』『尚書正義』『文選』『周易注疏』(国宝(書跡))、釋奠(市 民俗文化財)

桐生市

日本遺産認定ストーリー#2 かかあ天下 —ぐんまの絹物語—



かかあ天下ぐんまの
絹物語協議会HP

■認定年月日 平成27年(2015)4月24日

■認定形式 シリアル型 群馬県(桐生市の他に甘楽町、中之条町、片品村)

■ストーリー概要

古くから絹産業の盛んな上州では、女性が養蚕・製糸・織物で家計を支え、近代になると、製糸工女や織手としてますます女性が活躍した。夫(男)たちは、おれの「かかあは天下第一」と呼び、これが「かかあ天下」として上州名物になると共に、現代では内に外に活躍する女性像の代名詞ともなっている。「かかあ」たちの夢や情熱が詰まった養蚕の家々や織物の工場を訪ねることで、日本経済を、まさに天下を支えた日本の女性たちの姿が見えてくる。

■主な構成文化財

白瀧神社(ぐんま絹遺産)、旧模範工場桐生襟糸合資会社事務所棟(市重文/ぐんま絹遺産)、桐生市桐生新町伝統的建造物群保存地区(国重伝建/ぐんま絹遺産)、後藤織物(国登録/ぐんま絹遺産)、織物参考館「紫」(国登録/ぐんま絹遺産)、桐生織物会館旧館(国登録/ぐんま絹遺産)

館林市

日本遺産認定ストーリー#70 里沼(SATO-NUMA) —『祈り』『実り』『守り』の沼が 磨き上げた沼辺文化—



館林市「日本遺産」
推進協議会HP

■認定年月日 令和元年(2019)5月20日

■認定形式 地域型(館林市単独)

■ストーリー概要

関東の山々が一望できる館林では、今も多くの沼と出会うことができる。館林の沼は人里近くにあり、「里山」と同様に人々の暮らしと深く結び付き、人が沼辺を活かすことで良好な環境が保たれ、文化が育まれてきた「里沼(SATO-NUMA)」であった。館林の里沼は、沼ごとに特性が異なる。その歴史を紐解くと、里沼の原風景と信仰が共存する茂林寺沼は「祈りの沼」、沼の恵みが暮らしを支えた多々良沼は「実りの沼」、館林城とつづきの名勝地を守ってきた城沼は「守りの沼」と言い換えることができる。館林の里沼を辿れば、それぞれの沼によって磨き上げられた館林の沼辺文化を味わい、体感することができる。

■主な構成文化財

茂林寺沼及び低地湿原(県天然記念物)、多々良沼、城沼、封内経界図誌(県重文)、躑躅ヶ岡(国名勝)、正田醤油(株)旧店舗・主屋(国登録)、分福酒造店舗(国登録)、旧館林二業見番組合事務所(国登録)、東武鉄道館林駅を含む全42個